

これまでのヒアリングの主な内容＜地方圏への移住等関連＞

	邑南町	神山町(NPO法人グリーンバレー)
1 人口減少の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 邑南町民約1万2,000人弱の町民誰もが幸せになれるまちづくりを目指している。幸せという言葉は、単に生活の豊かさだけではなくて、やはり誰もが主役になれる。生きがいを持てる。必要とされる。そういった人たちをつくろうという思い。 ○ 今、1万2,000人弱だが、できれば1万人ぐらいをキープしたい。行政効率や財源を考えれば、1万人規模が私は一番やりやすい。しかも、首長の顔も見える、住民の顔も見える。これが余り少なくなるとなかなかしんどい部分が邑南町はある。しかし、小さな町村も頑張っている。一概に人口幾らというのはなかなか決めづらい。 ○ 邑南町は合計特殊出生率が2.65%。就業率も意外と島根県は高い。東京に住めば住むほど人口減少が著しくなる。島根県に住んでほしい。 ○ 0～18歳人口、今、1,660人。これを10年後には1,800人にしたい。140人増やす必要がある。毎年100人産まれれば、掛ける18で1,800人になる。こうなれば、地元の高校は何とか存続できるのではないか。このような思いがあって目標をつくった。 ○ 邑南町の場合の働き場は、1つは福祉職場。今、就業人口が1万2,000人のうちの約6,000人の雇用。その2割の1,200人が若い方々。誘致企業が7社あり、約500人の雇用がある。あとはサービス業、建設業、農林業。町外に出ているケースは非常に少ない。 ○ 社会動態はだんだん減少数が縮まり、平成25年度には逆転して、プラスになった。トータル数も減少の幅がだんだん縮小している。自然動態は高齢化率が高いので仕方ないが、何とか社会減をとにかく止めて、社会増を図っていききたい。 ○ 確かに20代の前半はどうしても大学で都市へ行ったりする。しかし、30代になると帰ってくる。 ○ 邑南町も消滅可能都市として位置づけられている。しかしながら、20歳から39歳のいわゆる若年女性がむしろ2010年の国調よりも増えている。頑張ればやれるという自信がついた。これからもチャレンジしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 神山町は昭和の大合併で生まれたときは2万1,000人で現在は人口が約6,000人。3割以下に激減をしている典型的な過疎の町。その中で、2007年10月に神山町移住交流支援センターが置かれた結果、数値が改善してきた。2011年度の社会動態人口は初めてプラス12人。その後また減少に転じているが、その減少の数がマイナス28、マイナス23。何もやっていなかったときは100人以上の社会減があったことから、大分改善をしてきている。 ○ 2010年度から13年度の間58世帯105名、うち子供27名が神山に移住している。神山の移住者の特徴は平均年齢が非常に若いということ。30歳前後の若い人たちばかり入ってきており、結果的に、内容的なものは少しずつ改善を見ている。 ○ 日本創成会議は、20代・30代の若年女性に着目しているが、神山では、7・8年ぐらい前から年少人口に注目し「モデル子育て世帯」を考えている。2010年の433人の年少人口が、何もしなければ2035年には187人になるという中で、2035年に年少人口300人の神山をつくるためには、4人家族で子供が2人のモデルの子育て世帯を、毎年、神山に5世帯20名、うち子供10名が移住してきてもらえれば良いというモデルを作った。これが当面の神山の目標になっており、その人たちのための住居あるいは仕事をつくり出しているところ。
2 課題	<p>(オンリー・ワン)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ まちづくりには、オンリー・ワンが重要。そのため、地域の資源を生かし、外からどんどん新しい風を呼び込む観点が大事。人口減少を克服するため、攻めと守りのプロジェクトを平成23年度に立ち上げた。 <p>(都会に住む人の価値観の転換)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 半農半Xという言葉がある。例えば自分の特技を生かしながら農業も少しやってみる。合わせ技でもって仕事をつくっていくことは大いに地方では可能である。 ○ 都会で例えば年収が独身で300万円あっても大変苦しい。邑南町に住めば、これだけあれば十分に生活の豊かさも感じられる。生活費は安いので、可処分所得も随分残る。結婚して、共稼ぎをしていけばもっと収入はふえる。そうしたスタイルを我々は提案し、都会に住んでいる方々の 	<p>(仕事がない)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 日本の地方共通であるが、一番大きいのは地域に仕事がなく、神山で生まれ育った子たちが神山に帰ってこられない状況。そうした中で、地域における世代の循環がだんだん細くなっておる状況がある。 ○ 地域に仕事がないために移住者も受け入れられないという問題がある。今どき工場を誘致してきて、移住者にそこで働いていただくというモデルは働かない。 ○ 日本全体が人口減少の時代に入っており、今まで人口を失ってきた過疎の町で過疎をとめようと思ってもこれは無理。過疎の現実を受け入れて、内容的なものを改善していく方向が必要。 <p>(創造的過疎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ そうした中、創造的過疎という言葉をつくり、人口構成の健全化、あるいは中山間は農林業だ

	邑南町	神山町(NPO法人グリーンバレー)
	価値観を、我々から発信をしていって、転換させていきたい。	けだという見方はやめて、例えばデザイナー、クリエイター、さらには建築家の人たちなどいろいろな職種の人が中山間でも働ける状況をつくっていく必要があるのではないか。
3 対策		
	<p>(公民館単位)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 集落が216ある。まだ1つも消えていない。それらを束ねる39の自治会を結成。これがまちづくりの基本。情報、連絡等々で自治会担当職員を設置して、いわゆる自立を促している。 ○ 公民館を大事にしている。この単位は昭和30年の合併以前の旧町村の単位。地域の宝を見つけて、自分たちで磨いていこうということで、夢づくりプランというものを計画して、今、どんどん実行していただいている。 ○ 若手の職員の研修も兼ね、公民館単位の地域が現状どうなっているか、どう克服すればいいかというカルテづくり研修をやっている。例えばある地域はこのまま放っておくと、52%の人口が減ってしまう。そのためには何をすればいいのか考えてもらっている。 ○ 公民館がそれぞれ頑張っていて引っ張ってくれている。その結果、それぞれ地域地区は人口が減っていない。毎年、U・Iターンを入れれば人口減少を克服するのではないかと考えている。 <p>(ケーブルテレビによる一体感)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 併せて、おおなんケーブルテレビを開設。加入率96%。防災等あるいはいろいろな情報提供等を含めて、まちづくりの一体感を保つために非常に役立っている。 ○ ビレッジプライド調査をやった。邑南町については約84%の人が満足。何をやるにしても、町民みずから自分たちのまちの誇りがなければ成功しない。これをさらに高めていきたい。 	
	<p>(A級グルメ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 攻めのプロジェクトは、A級グルメ。農商工連携で5年間のビジョンをつくった。邑南町の食材は、ロットは小さいが、非常にこだわった食品。これを生かすための取組みを実施。既に3年間で24名の起業家を輩出。定住人口も目標200名 3年間で128名。観光入り込み客数も目標100万人、現在92万人。やればできるではないかという誇りが大事。 ○ 邑南町の役場の中に島根大学のラボラトリーを開設。地域の課題について学生と一緒に勉強している。 ○ 食でがんばっているお隣の浜田市と連携することとしている。 ○ 今年の7月に東京の調理専門学校と連携協定を結んだ。卒業生を町が受け入れ、耕すシェフとして頑張る。調理専門学校は、邑南町のいい食材を使っていただくという関係。 ○ 東京に特に情報発信する。千代田フードバレー構想。これは同じような思いの自治体が連携してやっている。東京などで食と農に関する興味のある方、若い方々をどんどん邑南町へ送り込んでいただいている。 <p>(女性企業支援)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 邑南町としては、来年度以降、特に女性に絞って、女性の起業支援センターをつくってきたい。そのための人材確保を何とかしていきたい。邑南町の民間は今、ある意味では頼りにならない。いわゆる大企業というのは田舎でのビジネスチャンスというものも求めている。一流の民間 	<p>(ワークインレジデンス)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 神山では、ワークインレジデンスというプログラムをやっている。ワークインレジデンスというのは、地域に雇用がない、仕事がないのであれば、仕事を持った人に移住してきてもらえばこの問題は解決するという考え方。 ○ 町の将来に必要なと思われる働き手や起業家を、空き家を1つの武器にして、ピンポイントで逆指名しようという考え方。神山にはパン屋さんがいないが、パン屋さんができれば地域の人たちも毎朝おいしいパンが食べられるし、観光客の人もそのパンをお土産に買って帰る。この空き家はパン屋さんをオープンする人だけに貸し出すよと、最初から入り口を絞ってしまうという移住策。 <p>(サテライトオフィス)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ITベンチャー企業など10社がサテライトオフィスを設置したり、小さな会社であるけれども、本社を移転してくる。さらにはサテライトオフィスの関係で新会社が生まれてきている。オフィスとして使用しているのは、ほぼ田舎のどこにでもあるような古民家。サテライトオフィスというイメージからいけば、エンジニアとかプログラマーたちだという見方があると思うが、最近では営業まで成立させている。営業が神山のような中山間でできるようになれば、日本の地方がこれからがらりと変わる可能性があるのではないか。 ○ サテライトオフィスが始まったときに、マスコミも含め、本社の人間が2週間とか1カ月回っ

	<p style="text-align: center;">邑南町</p>	<p style="text-align: center;">神山町(NPO法人グリーンバレー)</p>
	<p>企業との協働を邑南町は今後いろいろやっていきたい。</p> <p>(日本一の子育て村)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 守りのプロジェクトは、「日本一の子育て村」。邑南町に住んでいただける方は「誰もが主役」になれるように日本一の子育て村を目指している。 ○ 一番の基本は医療。邑南町の中に98床、医師数が10人の小さい公立病院がある。産婦人科、小児科医も常勤でいる。24時間救急受付、365日やっている。ドクターヘリも飛んでいる。これがなければ「日本一の子育て村」はできない。こういうことを守りながら、負担軽減ということで、中学校卒業まで子ども医療費の無料、第2子目から無条件で保育料を無料にしている。保育所の給食は全て無料。完全給食。過疎債のソフト事業を活用している。 ○ 邑南町は小学校、中学校を統廃合しないことを明言している。小さくても地域の拠点。それは絶対守っていく。だから頑張って一緒にやりましょうと地域に叱咤激励をしている。邑南町でも、一流の教育を受けて、世界に羽ばたける力をつけていきたい。そのためには地域の課題を子供たちが小さいときから見つめて、それを解決していくことを行う。このことは社会に出たらかなり役立つのではないか。全ての小中学校に約12名教諭をつけ、図書館司書を配置している。 ○ 邑南町に住んでいても一流の教育が受けられるようなことをさらにさらにやっていきたい。 ○ 地元の商工会とコラボして、子育てのサービスを受けるとポイントがふえる仕組みを構築している。 ○ 邑南町の場合、今、町営住宅が500戸ある。作れば入り、足らない状況。これ以上作るのは大変なので、町有地を10年間、民間に提供して、借地料を払っていただいて、10年後には無償でお渡しするスキームを独自に構築している。さらに、当初の住宅の建設費の半分を提供する。このことで、家賃は3万5,000円以下に抑えてくださいということにしている。これ以上の金額では、若い人たちは入ってこない。 <p>(専属の定住コーディネーター)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 定住支援ということで、専属の定住のコーディネーターを持っている。それが一生懸命お世話をしている。コーディネーター自身もIターン。Iターンの気持ちがわかっている。 	<p>てくるだけだから雇用は生まないと言われていた。ところが、やり始めると常駐者もあらわれている。神山には必ずしも雇用が全くなかったわけではない。例えば近くにある温泉とかシイタケ組合で働くみたいな場所はあったわけだが、若者にとって魅力を感じる職場がなかった。ある会社は、スーパーハイビジョンの映像事業を行っている。最近注目を浴びている4K、8Kの保存事業が行われるということで、新たに30名ぐらいの雇用を生んで、エンジニアとかクリエイターが一連の建物の中で仕事をする状況があらわれるのかなと思っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ サテライトオフィスで若い人たちが働くようになれば、例えばビストロのようなサービス業が成立してくる。ビストロで出されるパンは、やはり移住者が天然酵母のパンをつくって、それが出される。有機栽培のコーヒーを移住者の人がここに持ち込んで、さらに有機栽培の野菜を移住者の人がつくってここに持ち込んで、地産地消のような形が生まれつつある。移住者だけでなく、地域の旧住民の人たちも刺激を受けて、ジェラート屋やピザ屋をオープンするなどすそ野が、循環していきながら広がっている状況。 <p>(現代アート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1999年に現代アートを神山で始めたが、地域の人たちはわけのわからないことをやっても何にもならないという見方であった。何もならないと思われることでも5年、10年、15年続けると1つの価値を生んでいく。地域に魅力が向上して来たらやはりその場所にクリエイティブな人たちが集結をし始めたということ。人が人を呼ぶという現象が起こっておるのではないか。今まで地域づくりは、何があるかということに注目をしていたところが大きかったが、そこにどんな人が集まるかということでこれからの地域は決まっていくような気がする。
	<p>(地域おこし協力隊)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ この成果を支えているのが、総務省の地域おこし協力隊。大変ありがたい制度。この制度の拡充は、ぜひお願いしたい。 ○ 地域おこし協力隊を23年度から導入。邑南町の食材を使って、将来、立派なシェフになってもらうことをコンセプトに「耕すシェフ」として募集している。 ○ 研修の場として町営のレストランをつくった。ただ料理をするだけではなく、農家から勉強して、自分たちで野菜をつくって、そして料理を出していく。「100年先の子どもたちに伝える邑南町の食文化」をコンセプトに、一流のシェフから学んでいく。 ○ 地域おこし協力隊は、これまで21名が参加。町内に今、18名定住。「耕すシェフ」だけでなく、アグリ女子隊、地域クリエイター、耕すあきんど、ガーデンプロデューサー、アグサポ隊等、いろいろ名前をつけて、食と農に関連する方たちを招いて頑張ってもらっている。女性の方もかなりいる。 	<p>(人材育成プログラム)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 神山塾という人材育成プログラムも行っている。これは6カ月間の職業訓練をグリーンバレーが民間の職業訓練機関としてやっており、外部人材の力を借りながら地域を持続させ、できるだけ筋肉質な地域をつくっていかうというもの。対象者は、独身女性、20代後半から30代前半、東京周辺の出身の子たちが多い。ほとんどの対象者は、デザインができたり、編集ができたり、カメラワークが得意というクリエイター系の子たちが多い。 ○ 結果的に、66名のうち約4割が移住者としてそのまま神山に残り、そのうち何人かは既にサテライトオフィスで雇用され始めている。さらには、カップルが9組誕生しており、そのうちで6組は訓練生同士。あとの3組は女の子が訓練生で、旦那さんと呼び寄せた。

	邑南町	神山町(NPO法人グリーンバレー)
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農業だけではなく、林業・畜産等もこの制度を使ってやっていきたい。 ○ 人材は不足している。特に民間のいろいろな若い優秀な方々を必要とされている。ぜひ地方へ派遣いただきたい。 ○ 地域おこし協力隊は、ぜひお願いしたい。3年終わった後のフォローが非常に大事。3年終わって切れるのではなくて、私どもも一生懸命フォローしたい。国も起業・就業に向かって彼らをぜひ定着させていただきたい。 	
	<p>(大学生の学習ツーリズム)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 特に都心にたくさんの大学生が集まっているが、ほとんど田舎を知らないのではないか。もっと若い大学生を田舎に送り込んでいただいて、そこで一緒になって住民と地域の課題を解決していく学習ツーリズムを国は後押しをしていただきたい。 <p>(移住促進センター)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 移住促進センターというものを国につくっていただきたい。インパクトがあるのではないか。 <p>(交付金)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 交付金制度を確立してほしい。効果がなければ、自治体が逆にお返しするというのもあっていい。それぐらいの覚悟があってもいいのではないか。それだけ市町村の力が試せる状況。 	